

答申事項2 目指すまちのイメージ（将来都市像）

10年後、さらにはその先を見据えた流山市が目指すべきまちの姿・イメージ

現計画

基本構想(平成12年～)：

『豊かな自然や歴史・文化を活かし、市民が真の豊かさを実感できるまち
「みんなでつくろう価値ある流山」』

後期基本計画(平成22年～)

具体的な都市のイメージ「都心から一番近い森のまち」

これまでの背景

- つくばエクスプレスの開業「流山おおたかの森駅」「ぐりーんバス」
- つくばエクスプレス沿線整備「首都圏広告」
- グリーンチェーン戦略※ まちなか森プロジェクト
- 「都心から一番近い森のまち」としてのブランドイメージの方向性の確立

市民意識調査

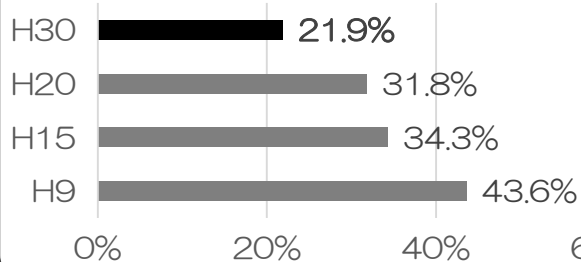
将来のまちの姿

- 1位「交通安全対策・防犯体制の整った安心安全なまち」35.2%
- 2位「緑豊かな自然環境に囲まれたまち」33.3%
- 3位「保健・医療が充実した健康に暮らせるまち」33.1%
- 4位「静かで良質な住環境の整ったまち」31.4%
- 5位「高齢者や障害者(児)にやさしいまち」28.7%

住み続けたい理由

- 1位 周辺の居住環境がよい 42.1%
- 2位 交通の便が良い 37.7%
- ...

5位 自然環境が豊かである 21.9%
【経年変化】



市民会議

将来のまちの姿(主な意見)

- 自然と便利の共生するまち
- 緑が多くてやすらぐまち
- 緑が豊かで住民が誇れるまち
- 50年後も森のまち

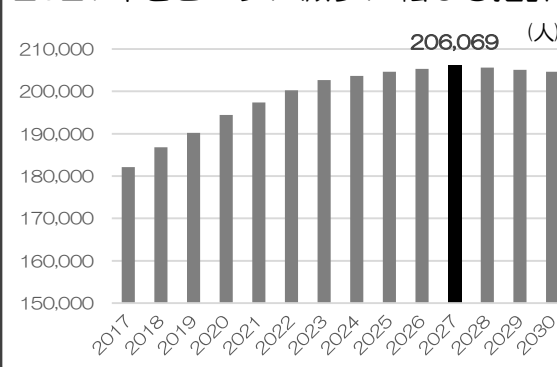
中学生意見

将来のまちの姿(主な意見)

- 自然と共存するまち
- 開発が進んでも自然が保たれるまち
- 自然が多く、ショッピングモール等のビルも共存しているまち

将来人口推計

2027年をピークに減少に転じる推計



都心から一番近い森のまち



- 都心からの交通利便性が高い
- 緑豊かで良質な住環境
- さらに住み続ける価値の高いまち
- 将来的にも人口が減りにくいまち

※ 良好な景観づくりや、地球温暖化防止に寄与するため、開発事業における緑化等の水準を評価認定することにより、環境価値の高い、緑豊かなまちを創造すること。

答申事項3 まちづくりの基本理念

流山市が目指すまちの実現に向け、全ての政策分野の根底に共通するまちづくりの基本的な考え方

現計画

価値あるまちづくり

「人間の価値」…住んでいる人を知り、
「自然の価値」…住む人の環境に配慮し、人と自然の共存を図り、
「文化の価値」…郷土の歴史を知り、文化の創造を目指し、
開かれた市政のもとに、市民と行政がともに手を取りあって真の豊かさの実感できるまちを創造していきます。

これまでの背景

- 健康都市宣言(平成19年) WHO(世界保健機関)憲章の精神を尊重した宣言
- 自治基本条例(平成21年) 市民自治によるまちづくりの原則
- 市民参加条例(平成24年) 市民参加の必要事項を定めたもの
- 市民投票条例(平成29年) 市民投票の実施・請求の必要事項を定めたもの

市民会議

将来のまちの姿(主な意見)

- 市民が行政と協働するまち
- 住む人が生き生きと活動・活躍するまち
- 流山市民が流山市を積極的にアピールできるまち

中学生意見

将来のまちの姿(主な意見)

- 地域の中に公共施設や商業施設、コミュニティ施設など、常に市民の「居場所」があるまち
- 住民同士の交流が活発で、楽しく、のびのびと子育てができる地域づくりに取り組んでいるまち
- 住民が愛着を感じられる、「流山といえばこれ」というものがあるまち
- 自分の子どもや孫にも誇れるまち

キーワードは、市民

市民の知恵と力が活躍するまちづくり

市民の知恵と力が活躍するまちづくり

- 情報公開やオープンデータ
- 行政との協働
- 市民の知恵と力が活躍
- 自己実現できる

市民が誇りと喜びを持てるまちづくり

市民が誇りと喜びを持てるまちづくり

- 「住んでよかった」「ずっと住み続けたい」
- さらにその思いの深化
- 愛着の高まり
- 市民が感じる「誇り」と「喜び」

市民・都市・コミュニティが健康なまちづくり

市民・都市・コミュニティが健康なまちづくり

- 快適な都市環境
- 安心できるコミュニティなど
- それらが市民(身心)の健康
- 健康に配慮した政策